

第 162 回 A C K U 山行 氷ノ山千本杉ヒュッテ 春の整備山行報告

日 時：平成 25 年 5 月 18 日(土)・19 日(日)

参加者：L 金井良碩、井上達男、居谷千春、矢崎雅則、白形洋…5 名
(現役 L) 松村健司、吉澤賢、山本浩輔、山内渉平、北村友憲、立川絢一、
坂本諭、阿部仁美、井部良太、加藤礼示、榊原瑠衣、高橋香、田畑広樹、
松浦凧沙…14 名(____は新人)

記 録：5 月 18 日：大段平 1250－千本杉 H1355

千本杉 H1455－氷ノ山頂上 1525～1545－千本杉 H1625

5 月 19 日：千本杉 H1035－大段平 1105

松山から今回の氷ノ山行のベースとなる大段平までは長駆 350 km、約 5 時間半のアプローチとなる。松山郊外で望む我が郷土の霊峰石鎚山を始めとする二ノ森、堂ヶ森の連峰は霞んでいる。(四国・松山から参加した白形を中心に以下記す。)



ヒュッテの戸を締めて、強い風と雨の中をいざ下山という参加者全員 (19 名) です。

5 月 18 日 12 時半に大段平駐車場に着くと、金井さん、居谷さんが昼食を摂っ

ており、駐車場の奥の方では現役が当に今出発するところであった。急遽、現役組に今夜の楽しみを託す。

今年の山岳部への入部は女性4名を含む7名で、全員参加とのことである。

そうこうしていると井上さんが上って来て昼食を摂り始める。彼は朝食も摂らず千本杉ヒュッテから頂上を越えてあずきころがしを下り、林道を上って来たとのこと、お疲れ様。更に淡路・洲本から駆け付けた矢崎さんが合流する。当初の計画ではヒュッテ集合となっていたところ、期せずして今回のメンバー全員が大段平に集合したことになる。聞いたところによると、全員が道中での事故渋滞に巻き込まれたとの由。当事者でなく良かった。

居谷さん、矢崎さんは現役諸兄と共に出発し、金井さんと白形が少し遅れて出発する。井上さんは本日のランチを済まして最後に出発となった。

氷ノ山は昨年(2019年)の第152回ACKU氷ノ山千本杉ヒュッテ整備山行以来で、雪が解け芽吹く季節の山は気持ち气和む。金井さんと故緒方俊治さんのこと、ヒュッテの整備のこと、新人が7名も入部したことなどを話題にしながら登る。金井さんは歩行が厳しいとのことであるが、白形自身も2時間が限度かなとの思いで進む。

ヒュッテに着くと、ヒュッテの前には20名位の小学生を中心とした団体が休憩を取っていた。登ってくる途中においても数組の登山者とすれ違う。この時期の氷ノ山は、登山のグループ、山菜採りのグループで賑わっている。

早速、ヒュッテの整備に入る。居谷さんらは水源地の整備に出向いている。残りの若手は夕食の準備と薪材料の集積に励む。白形は水源整備の応援に女子部員を伴って出掛ける。途中、彼女らは半袖のシャツ、無帽で来ているとのことなので、注意する。水源からの配水管が細くて心細い。もう一段の濾過機能を確保して、取水口からその間の管を一段太くしたらどうかと金井さんに話す。居谷さんらの努力の結果、名水千本杉は蛇口からほとぼしり出ることとなった。感謝、感謝。

翌19日の天気は崩れるというので、現役と居谷さん、白形の16名は夕食の準備もひと段落ついたところで頂上へ向かうことにする。居



谷さんと白形はコブシの花、ブナの若葉などを愛でながら登る。今年も杉林の中、頂上直下に残雪を見る。

頂上では現役達は読図の実習中。しかしながら、手にしているのは氷ノ山頂上付近のコピー1枚。霞んでいるため、遠く伯耆・大山までは望めないにしろ赤倉山、鉢伏山、瀬川山、蘇武岳、扇ノ山はよく見える。目的地に計画通り到達するために、安全な山行を進めるために大事なことは、自分は今何処に居るかを承知することである。このために読図は非常に有効な手段で、地図は命の綱ともいえるので、大事にして欲しい。



更に頂上などからの見晴らしが利けば、地図を読むことにより新たなる山々を同定し、次々と関心の輪が広がるのである。山にあっては、地図1枚はハンバーガー1個よりも価値あると思うのは白形だけだろうか。

帰途古生沼に寄ってみるが、積雪のためか柵が倒壊し、園内は乾いた状態であった。雨が降れば湿地化するのだろうか。更に少し下に案内標で示されているみたらし池を見ようと少しブッシュを下るが、それらしきものも見えず、ブッシュを下ることも伝えていないため、断念して引き返す。

18時過ぎより夕べの宴に入る。現役諸兄の準備したBBQ、鍋料理、そしてお酒で大いに盛り上がる。20時頃には上弦の月がヒュッテ南の広場上空に掛かり、付近を明るく照らしている。井上さん、居谷さん、矢崎さんは現役と混じって、テラスで交歓会。ヒュッテの中でもストーブを囲み話に花が咲いている。金井さん、白形はしばらくの交歓の後就寝。

翌19日の日の出の頃（4時50分頃）は、風強く、霧が走り、雨も時折降る

天気。昨日の予報は的中した。その様な風、霧、雨を突いて、7時頃下って来たパーティがある。昨夜は頂上の避難小屋で一泊した由。その後も、雨風を突いて東尾根を或いは大段平から続々と登って来る。彼らはヒュッテのテラスで一休みし、雨具等を着けて頂上に向かう。無事であれと祈る。

我々は朝食を済ませ、ヒュッテ整備に掛かる。幸いにもこの間は雨が止む。昨年取り込んでいた丸太からの薪作りに掛かるが、昨年と同様に現役の薪割りへの関心は強い。薪の二階から一階への移動も併せて行う。

薪割りには思考とかなりの技術が必要である。丸太の性状を見極めること、斧の刃を丸太に打ち込むことのできるエネルギーを斧に与えること、更に斧の刃を目的とする点に導くことが不可欠である。腕力でエネルギーを与えようとすると、得てして目的点を外れることが多い。賢くなければ薪は作れない。今年の薪作りでは、矢崎さんの働きが大きかった。去年難渋した丸太も、今年は全て薪となった。ヒュッテのストーブを利用する者は彼に感謝すべきである。

ヒュッテの掃除、戸締りを終えて下る頃には、治まっていた雨風が非常に強くなる。にも拘らず登って来る人達があり、彼らの執念には感心する。

大段平に着く頃には風が残るが雨は止み、無事に解散式を終える。現役組、矢崎さんは先に下り、金井、井上、居谷、白形の4名は関宮と八鹿のほぼ中央に位置する万灯(まんど)の湯に浸かって帰ろうということで、鵜縄集落経由で下った。(記：白形)